

カンキツ新品種「早香」の特性

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹部

研究のねらい

本県では、温州ミカンを除き、年内に本来の成熟期を迎える品種は極めて少なく、大部分が完熟前の出荷となるため、品質面の問題は免れなかった。

そこで、年内に完熟し、出荷の可能な優良品種の選定を行った。

研究の成果

1. 来歴

「早香」(はやか)は農林水産省果樹試験場口之津支場において、「今村温州」を母親とし、「中野3号ポンカン」を父親とした交雑実生である。

2. 特性

(1) 樹性

樹姿はやや立性で、樹勢はやや強く、枝梢が密生し、短い刺が発生する。葉形は披針形で温州ミカンに比べ細長く、ポンカンに比べ丸みを帯びている。

(2) 結実性

花序は単性で、少量の花粉を形成し、花粉稔性は高い。結実性は良好で、次代高接とも早期より結実し始める。単為結果性はなく、自家不和合性も見られない。

(3) 果実特性1

果実の重さは140g程度、果形は偏円形、果梗部に低いカラーを形成し、果形指数135程度である。果面は、油胞が大きくて突出し、粗くなりやすい。

(4) 果実特性2

果皮色は橙色で、着色は11月中旬より始まり、12月中・下旬には完全着色となるが、果実全体に緑斑が遅くまで残るものが見られる。浮皮は、初期症状として11月下旬頃果実に凸凹を生じ、その後の進行は早い。

(5) 果実特性3

じょうのう数は13個程度、じょうのう膜はやや硬い。無核果はほとんどなく、種子数は多い。果汁の糖度は高く、12度以上となる。クエン酸は12月上旬には1%以下となる。

果皮、果肉ともポンカン香を有する。収穫期は、浮皮の発生などを考慮に、11月下旬～12月上旬とし、着色促進を図り、年内出荷を目標とする。

3. 栽培上の留意点

着色は遅れるが、浮皮が発生しやすいため、果実の状態を把握し、収穫期の判断を誤らないようにする。

表1 果実品質

項目 場所名	平均 果重 (g)	果形 指数	果肉 歩合 (%)	可溶性 固形物 (%)	クエン 酸 (%)	甘味比	糖度 計示度	果皮色
果樹試・口之津 熊本果研	142.0	131.5	76.6	14.99	0.84	18.28	14.4	6.6
	161.9	120.6	74.6	13.83	0.69	20.04	12.2	7.8

昭和62、63年 平均

表2 ポンカン品種との果実品質比較

項目 品質	平均 果重 (g)	果形 指数	着色 歩合 (分)	果面 粗滑	浮皮	果肉 歩合 (%)	可溶性 固形物 (%)	クエン 酸 (%)	甘味比	糖度 計示度	含核 数 (個)
早香	134.7	140.4	9.5	やや滑	軽	79.3	15.09	0.71	21.25	13.5	5.6
大田	126.0	121.2	10.0	やや滑	無	78.0	13.12	0.92	14.26	11.9	6.3
吉田	141.6	111.5	6.0	中	無	71.4	12.48	0.93	13.42	10.5	8.2
森田	104.0	125.7	10.0	中	中	71.8	13.45	1.12	12.01	11.4	6.4
F-2428	135.0	106.4	7.0	中	無	71.3	12.78	0.79	16.18	11.0	8.8

平成元年 調査

表3 現地における品質

項目 場所名	平均 果重 (g)	果形 指数	着色 歩合 (分)	果面 粗滑	浮皮	果肉 歩合 (%)	可溶性 固形物 (%)	クエン 酸 (%)	甘味比	糖度 計示度	含核 数 (個)
水俣本	161.0	134.5	9.0	滑	軽	75.4	13.85	0.66	20.98	12.2	9.0
	160.0	135.6	9.0	中	中	76.0	14.09	0.68	20.72	12.1	8.2

平成元年 調査

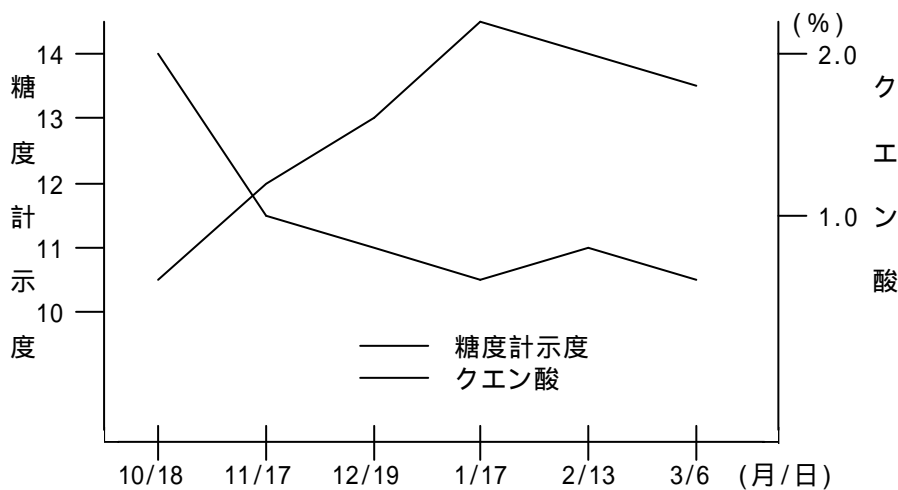


図1 糖度計示度及びクエン酸の推移(12月19日収穫・貯蔵)

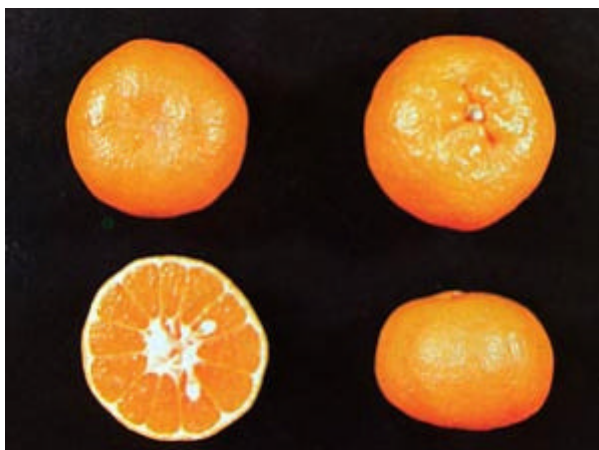


写真 早香の写真